

パネル展示を見て

1月 日 パネルの写真の家の様子が地震というより
() かにつぶされたようだった。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

いろいろな写真で家や建物がぐちゃぐちゃに
つぶれていた。もしも地震の力が強いことは知っていたが、三好
さんや神戸新聞がした写真なども見て、さらに恐しく、
気をつけられないといけないと思った。避難しないとい
けなくなったときのために、しっかり備えておこうと思った。
新聞社には、宿屋というものもあって、新聞社にとまらないとい
けないといことをはじめとした事件や、なにがあたり夜中であつた
現場にいけないといけないというのがとても大変そうだと
思った。毎日毎日それをやってくれているのには感謝か
けたいと思った。いつもおりがどうございませう。

パネル展示を見て

1月15日 パネル展示を見て、この神戸市などにこんな
(金) 被害をあたえていたことが分かりました。そのうち火災もた
くさん発生したことも分かりました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演を聞いて、災害はく返させるので、そのことを風化させず
こうせいに残し、対策をしていかなければいけないと思いました。
そして、災害からまなび、もし災害がおきたらすぐに避難できるよう
に避難場所を決めたり、災害用にリュックサックにいれたりなどを
しておかないといけないと改めて思いました。神戸新聞者の三好さんのお言
では、災害時でも市民のために情報をいきょうするため苦勞の末に
朝かんや夕かんをつくっていたことが分かりました。この深刻なとき
でもくじけずにみんなのために動ける人は改めてすごいと感じました。
災害はこんな被害をおよぼしますが、そこからまなびはないと次
にはいけないと思いました。

パネル展示を見て

1月4日 六甲道駅がとてもくずれていて線路も
(木) ぐしゃぐしゃになっていたのに今は、違う
もののようにきれいに変わっていました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

三好さんは、
新聞社と言う仕事は、地震で家族を亡くした方
たちの写真もとらないといけないし、写真をとって
記録するだけで、救助することはできないけど新聞
を作って、人々に届けて希望をあたえることは、で
きるんだなと思った。コロナウイルスの時に地震
が来ると、避難所で感染して、死んでしまったりす
ることが分かりました。たくさんの人達のおかげで
今神戸がきれいになっているから、私も大切にしたい
なと思いました。また、家族とどこに避難するか、もう
一度決めておきたいです。

パネル展示を見て

1月4日 災害のなかがいやらしい横断歩道
(木) 分りおかし、過去の写真でみんな伝えられん
がなとまどろまれる。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

災害でほとんどの人が亡くなる人がたりず助
けた命も助けられなかったりするとうことを、伝
える残すためにも写真、記事を書くけれどその
家族の人は、よく悲しい思いをする。おたか進
歩をするにはせいか、仕事とかがよく分りました。で
も今はそれが残っていて伝えられて災害はこわいこと
がおきるから、こういふ物を準備しようとうことが
出来るから、亡くなる方が少しでも少なくておのときを
写真、伝えられてきたことの意味があるものだ
たいえるようにしたいと書いています。

パネル展示を見て

1月15日 (金) 自分は、こんな大地震をあげてはいないんですけど、
展示を見るたびに本当にひどかったんではないかと思
います。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

・ 防災学習で地震、土砂災害、津波などの災害について
新聞社の人に教えてもらいました。新聞社の人に話を聞いていると
大地震の写真を見せてくれました。自分の住んでいる近くの場所。
なにか大地震におてたおれていたり、ホロボロになつたりしていました。
こんな自分の住んでいる近くの場所がこんなにも大地震におて
ひどかったとは思わなかったんですけど、すぐ写真にはたてものがたおれて
いたり、ガラスが破けたりしていました。自分は土砂災害、津波、大地震
などをあげてはいないんですけど、パネル展示を見ていくうちに
少し怖くなっていききました。新聞社の人々の仕事は、神戸のみんなの人に
情報を伝える事だとしてくれました。

パネル展示を見て

1月14日 (木) パネル展示を見るだけで震災のひどさが
分かる。もうこんなことはおきないでほしい。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

今回の講演会で震災の事についてくわしく
神戸新聞の三女子さんから聞いたときにこんなに大変
なときなのに人に取材をして記事を書いている人に
取材をしたり写真をとったりして記事を書いている人にか
を言われたかもしれないけれどもみんなのため
にも何を言われても新聞を作るしかない新聞を
とどけるしかないという。ぼくたちはそんなに大きな
震災にあつたことがないからよくわからなかったけど
三女子さんの言葉を聞いて当時がどれだけの地震
だったかと言うのをよく分った。

パネル展示を見て

1月15日 パネルの1つひとつに震災当時の被害の様子、
(金) 避難所の様子がはっきり残っていた。火災や家の倒壊
している写真を見ると胸がしめつけられた。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

小学生のときから防災学習をしてきましたが、今年は特に
印象深かったです。なぜなら、当事の神戸新聞社さんの「人々に
情報を伝える」という気持ちと、地元である神戸がなくなると
いってよいほどの被害をより知ることができたからです。

地震のゆれだけでなく、火災や津波など様々な被害を受
けるということが大地震の恐いところだと思いました。

阪神・淡路大震災から、今年で26年がたちます。被災された
方々の心の傷をいやす歌の力、そして過去の経験を活かして、
後世に伝え、そして今後に向けて備えることが大切だと思
いました。

パネル展示を見て

1月4日 被災している写真を見て、とても怖い状況で
(木) 建物が倒れていたりと、その当時の様子が伝わ
た。人々が助けあうことが大切だと分かった。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

三好さんの話を聞いて、震災当時の様子や他の災害
の被害などをくわしく知ることができた。また、
コロナ禍の今の避難の仕方を知ってこれからもし
災害が起きたときの意識しなければいけない
ことがかり防災、減災をできるようにして
いきたい。そのために今回習ったことや今までに
習ったことを活かして災害が来る前の準備をして
おく。新聞社の方々の震災の中で自分たちも大変
な中で市民のために、辛いことも乗り越えて
仕事を行う責任感や気持ちを見習いたい。

パネル展示を見て

1月15日 つぶれてしまった家、どれも同じ風景だが、そこにつまった
(金) 一人一人の思い出と記者の思いの全てが写っていて
全ての写真がこれから伝えていけたらいいと思いました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

こうして、講演会を聞いてその時の気持ちや被害などはわかっている
も経験 をしないと分かりきれないところもあると思います。その
わかりきれない、ということがこの地震の怖さだと思いました。

「いつおこるか分からない」「余震、津波」「気持ちが焦ってすぐ
行動に移せなきゃ」と色々な恐怖がありますが、どれも
経験しないと完全にわかりきれないことだと思います。その
「分からない」をどういう対策でうめなおすのかというのをこの
学習で今後の地震対策に活かしていけるようになったら
と思いました。

パネル展示を見て

1月15日 どうじは、トイレもお風呂もなくて、毎日
(金) つがい日々だったんだと感じました。家
もほとんどくずれていて、つらそうだと思いました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

あらためて地震のことを知って、本当に
勉強になりました。私がしらなかったこと
などもこの授業で知ることができ、すごくか
んしんしました。三好さんもすごく分かりやすく
説明してくれたので感謝しています。私は
大きな地震を体験したことがないけど、
新聞やお話を聞いていて、自分も体験したよ
うな気持ちになりました。この授業をしたこ
とは、これからさき必ずおぼえておき
たいと思いました。

パネル展示を見て

1月15日 自分がふだん見ている町の様子とはちがい

(金) 全てがこわれている写真など、危険な写真が多かったけど、その中で、命かけて情報を伝えるために写真をとっている人を知った。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

もし、今地震など、災害が起きたら、今までとはちがう風に避難しないといけないけど、あわててしまい、何避難所に持って行ったら良いのかなど分からなくなってしまうけど、講演会で、マスク、アルコール消毒液、体温計など、今に必要なものを用意しておくことが分かった。また、避難所には多くの人が集まってしまい、密になってしまうけど、背を向けて過ごすことや、換気をするなどで、隔離する部屋の確保ができていて、すごいと思った。そして、不安な人が多くいる震災の中、明るい情報を伝えるために、記事や写真をとり、新聞を届けていた新聞社の人に当時の人たちは、とても感謝していたと思う。

パネル展示を見て

1月14日 写真を見て、今の神戸と比べると、考えられな

(木) いような生活があつたんだなあと思った。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

災害がおこったあと、いろんなことが変わっていくんだなと思った。変わっていく生活の中で前向きに生きていくのは大変だなと思ったけど、そんな生活と乗りこえて町が復興してきたんだなと思うと、すごいと思った。ふだんから避難、減災などのことに意識を持って、できることはできる時に備えようと思った。ふだん、災害があつたときは、自分は情報がほしいと思って、待っているだけだけど、それは新聞社の方は自分のために、新聞をつくってくださっているんだなと分かった。新聞に対する気持ちが変わった。

パネル展示を見て

1月14日 地震のときの様子があり、今住んでいる所も火がつい
(木) ていたとある。

だんだん復興していくのが印象的だった。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

当時ぼくは生まれていなかったけど地震についてよく知れ
ました。たくさんの方の犠牲を聞くとしても大変だったのが
分かりました。

ほかの災害のことも知れました。津波や台風が起きたら、
聞いたことを思い出して迷わず行きたいと思います。

今も避難しないといけないことがあると、ルールを
もっていたり座るときは背を向けてなるべくしまつたよ
うにしたいです。マスク何枚かもって、一つ使ったら終
わっても別のマスクをつけれるようにしたいです。

三好さんの話を聞いてとても心強くなりました。

パネル展示を見て

1月14日 食料をもらっている子と“もやぶ人か”い
(木) てよく限界の中か“んぼ”たなと思
いました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

地震や火災はいつ、どこで、おきるか分からな
いので“防災バッグ”などを用意しておこう
と思いました。

新聞社の人には怒鳴られても写真をとる勇
気があるのはすごいと思いました。

何者かにつかまれて振りまわされた感じだ
った。っていうのは棚とかが全部たおれるか
ら危険だなどと思いました。

たおれた物とかでは、はく死とかした人は
かわいそうだなと思いました。

パネル展示を見て

1月4日 前の写真が多く、新聞などでは白黒だ、
(木) た写真より迫力があり、迫ってくるものも強か
た。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

新聞社の仕事は、地震などの自然災害とは、特に
被害にあたる人とはあまり深く関係していないと思っ
ていたが考えが変わった。コロナ感染者の数字などの条件に
関わらずもし身近なところで災害がおこたら、新聞社の
人に、新聞によって助けてもらいたいと思った。

また、自分が生まれ、物心ついた後におきた災害も多くあ
り、ニュースなどで知っていたのに、何も思わず忘れていたこと
が、被害にあたる人に申しわけなかった。これからは、例え自
分の身近な人や場所に関わっていないとしても、忘れずに、防災
や減災に生かしていきたい。

パネル展示を見て

1月15日 パネルを見て、被害がどれほどのものだったのか、よくわかりました。
(金) 焼け野原だった長田が倒壊した建て物も、今ではおそく全て復
興することができたんだなと思いました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会では、地震の規模がどれくらいのもだったのか、被害の大き
さがよくわかりました。また、災害の基幹 避難所での注意なども
よく理解できました。あんなに倒れていたビルが、何本も上がり、黒い
は、消え、今ではとてもきれいな神戸に復興していたんだなと思いました。
神戸新聞社では、ホストコンピュータが動かなくなり、電話も本しか生き
残ってなくて、絶望的だったのに、他の新聞社の協力を得て、新
聞を作りあげることができ、そして、明日の記事をたくさん書くことができてい
て、神戸新聞社の人達は、あきらめずに読者に新聞を届けようと思っ
かとても強いんだなと思いました。僕は震災を経験してはなかったけど、今まで
学んだことを、後世にも伝えていかなければならないんだなと思いました。

パネル展示を見て

1月14日 教科書にのせられていない写真が多くあ
(木) りました。あちこち壊れているのが分かり、とても大
変なのが見て分かりました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

新聞は、たくさんの方が関わって出来るという事が改
めて知りました。また、地震が起きてもそのたくさんの人
が、苦しくても新聞を作ろうとしていたという事が自分の仕
事を大切に思い、読む人のために全力で働いていると
いうことが伝わり、とても感動しました。記憶はたれ
かで見せる事は出来ないと写真はそれか出来、また何
十年も残す事が出来る、と考えると、写真をとるカメラマンの
仕事は大切なものだ、なと思いました。また、新聞も写真
と同じく、何十年も残せる物なので、文章を書く、写真をとる
その他の人、すべてが大切で、おぼろしい仕事なのだ、なと思いま
した。

パネル展示を見て

1月14日 パネルの中の写真には、身近な場所の写真も
(木) あった。普段そんなところがあつたとは思わない、ほと復興
をうけているか、たしかに被害はあつたのだと分かった。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

阪神淡路大震災では、これまで類を見ない揺れにみまわれ、
その分それによる被害も大きかったと分かった。そんな中、自分の
身内や家族のこともおそろくとても心配で、新聞を投げ出しても
いいはずなのに、その日の内にギリギリながらも夕刊の新聞を
皆にとどけることは、とてもすごいと思うと同時に、とてもつらいことだ
と思う。そして、根気強く誰かのために、と思って働いてくれる人
がいることで神戸の町は素早く復興していったのだと思う。
今後、南海トラフ巨大地震、が起きると多く取らざるか、とんなことがある
と、誰かのために働けるような自分になりたい、と思った。

パネル展示を見て

1月14日 私がかよっていた小学校の写真を見つけ
(水) ました。ひびき所になっていて、すぐたくさん
の人がいた。このようだなと思った。写真だけで人に伝
ゆるんぞうなと思った。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

当時のようすがよく分かった。震災でけがやつかい事あって
そ新聞をつくる。そんな新聞社の人々はすごいと思います。
地域のためにたくさんがんばる。私にはできないなと
思った。私の家では防災マップをくってないからまたつくろう
と思う家具の転倒防止はしているのでもっと防
災をしていこうと思います。もっと地震につい
て知り、防げるようにしたいです。南海トラフ地震も
阪神・淡路大震災ぐらいのゆがみくるかもしれない
いから気をつけようと思います。新聞記者の人
たちが写真を撮るのがすごいと考えるのも分かったな
と思いました。

パネル展示を見て

1月15日 いろいろな場面があり、その映像も必死で生きようと
(金) する人たちがたくさんいて、じやて神戸が復興していた
人だなと思うと人々が思う希望の力はすごいと思わされました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

地震や津波などの震災を㊦とみるか㊧とみるかで備えかた
がかわってくるんじゃないかと気がかされました。㊦とみて震災
いやだなと心のかたすみにおくのではなく㊧とみてハザードマップ調
べておじとか、震災がおきたときに冷静に対応できるための
準備をし、おじとか、震災での教訓を生かして対応するとい
う教訓が必要だと思いました。過去を忘れないために、今でも語りつ
かかっているわけですから、ほくらも過去の教訓を学び、今を
生きることが自分の目的であり目標でもあるので、今回の講演
会を聴いて家族と震災に備えたいです。地震をおさえるこ
はできませんが、備えることは、一人一人の努力と理解力が人を助
ける力になると思います。

パネル展示を見て

1月14日 自分が住んでいる神戸の街が今では想像できないほどに荒
(木) れていて驚きました。そして今では神戸の街が復興しては
色々な地域から元気付けてくれた方や地元の方のおかげだと感じました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

自分は26年前の阪神淡路大震災を経験していないけれど、神戸新聞の方のお話しや、防災学習で学んだことを決して忘れないように、これから起ると言われている南海トラフに備えたり、次の世代にも受け継いでいけるようにしていきたいと思います。神戸新聞の紙面が被害の状況から神戸の街を元気付けるような明るい内容に変わっていったというのを聞いて、それは地元の地方紙にしかできないことだと思います。今自分たちが平和に過ごしているのは、26年前のときと比べると感謝しないといけないと感じました。1つの揺れで大切な命やものをなくしてしまうのを知って家族や友達と一緒に過ごす時間を大切にして、震災のことを忘れないように過ごしていきたいです。

パネル展示を見て

1月15日

(金) 地震のそのころの写真を見て、そのころの被害がよく分かりました。
そこから神戸が復興したのはすごいと思いました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

今回改めて、阪神・淡路大震災の様子が分かりました。このことをぼくたちは忘れないといけないと思いました。そして、そんな大きな地震があつたのに、関係者が復興を促して、きれいな街になつたのがすごいです。ぼくはそのころいなかたけれど、とても悲しい思いをした人がたくさんいて、そしてそれから、もう一度立ち上がることでできたことが、神戸の人たちはすごいと思います。新聞社の人たちも、そのころ大変だったのに、京都の人に協力してもらって新聞をつくるという、執念と京都新聞の助ける気持ちというのが、それほど新聞をつくるのに、気持ちが入っていることがすごかったです。改めてぼくは今回地震のしるしを失いました。この経験はこれからの活かし方がないといけないと思います。それは地震以外のことにも活かし方がないといけないと思います。

パネル展示を見て

1月15日 今私たちが暮らしているところがパネルを見て震災当時
(金) 建物がかくずあたりしたことを知りました。今では想ぞう
できないほどの被害だということも分かりました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

今日の講演会で震災のことを次の世代へ語りついでいくことの大切さを
知ることができました。そして、災害が起きたらそのことから学ぶことも大
切だと分かり、阪神淡路大震災で学んだことも次に起こるかもしれない
災害に備えるために生かしていかなければいけないと思います。そのため
は今まで起きた災害について知り、考えて行動をしていこうと思いま
す。また、今はコロナがあるので災害が起きたときにひなん所に
人が集まりすぎたり、アスファルトが融けたりということもありえるので
コロナからも学ばなければ何も始まらないと思いました。なので、私た
ちはコロナについて考えると同時に自分の命を守るということも考えな
がら対策を考えたり、それを行動に移すということをしていきたいです。

パネル展示を見て

1月14日
(木) パネルを見て今はとてもキレイな町が広がってい
るけれど26年前はあんなひどいことになっていてビックリだった。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

神戸新聞の人のかたが来てくれて講演会をしてもら
いました。三好さんはとてもわかりやすくおしえてく
たことでそれに三好さんがとてもおもしろかった
ので聞くのが楽しくて楽しくてあきませんでした。
地震が起きてしまった時最初にとる行動、事前に
用意しとくことを教えてもらい知らなかったこともしれました。
私は救助をしたりする人だけが命かけの仕事だと思
っていたけれどそれと同じくらいに記者の人かたたちも
命かけて取材をして精神的にも辛かったと思います。
それでも取材をしつづけていて本当にすごいと思いました。

パネル展示を見て

1月15日 倒壊している町や電車を見て、みんなみんなにこわれたりするん
(金) だと思った。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

新聞を発行するために必要な機械がこわれてしまっても、みんなに今の状況を
を伝えたい。そうゆう思いで京都新聞社まで行くのは、たむいと思った。

パネルや写真で地震直後、親戚などいっしょに棚やテレビが普通ならたおれな
い物が落ちたり、たおれてきたりして、とてつわかったと思うと、早く情報が知た
い。となるのかわかった。

私の家は、おまじ地震にそなえてのいれびをしていないので、急救バッグや大切
な物をすぐ小分けして行けるようにしようと思った。また、重い棚やテレビ、机とかが倒れ
ないよう、とめるものを取っ出せるだけ地震のひびがつかないよう、にしたい。

パネル展示を見て

1月14日 当時の被災者がどのように暮らしていたかや、町
(木) がどんなふうになっていたか、かかわった。建物が
がくずれたり割れたり、砂まみれになっててすごかった。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

自然にはいろんな災害があって、それぞれがいろんな
被害をあつえることがわかった。新聞記者の人は危
ない現場にも命をかけて取材に行っていることを
知って、新聞の重さを感じた。また、阪神淡路大震災の
ときも被災者や神戸新聞の読者のために大変な中
取材や新聞作りを行っていたことを聞いて、新聞の
大切さや、情報のありがたさがわかった。内容も面白い
ものになって、いったりと被災者を精神的にも支えるよう
に工夫がしてあって、その状況の中でも市民のために
やってくれたんだなと思った。

パネル展示を見て

1月14日 震災直後の写真を見て震度7の地震
(木) はビルや家なども壊れてしまうほどの
地震ということがわかりました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

三好 正文さんにお話しを聞いて震災当時の
ことがよくわかりました。三好さんもその事件か
な。たらせなっていたかもしれないけれど
そういう人から話しを聞くことでもし寝ていた
らとなっていたら起きていたらせくなかった
とかそういう人がいたことが時間が早かたから
交通はそこまでの死者が多くなかったことは
不幸中の幸いと聞いてそれがもしないけどその分
家の中での圧死が増えていることばかりい
ないけども中にはたけたけもたけれたかたという人
もいたということがわかりました。

パネル展示を見て

1月15日 地震がもたえた被害が恐ろしさが写真で
(金) よくわかりました。もし自分の家があの写真のようになら
ら、と思うと怖いです。こうならいようとする防災、減災は大事に感じました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

今までに起きた地震や、それによる津波、豪雨、台風によって、そ
れぞれ分かったことがあるのを知りました。それを生かすことによ
って、防災や減災、避難場所も、もっと良い方向に変わっていくの
ではないかと思いました。また、講演会で、震災当事の様子
の写真もたくさん見せてもらいましたが、特に印象に残ったのは、ビル
が倒れていく写真でした。写真を見るだけでも恐ろしいのに、こ
の写真をとった記者の人は、この倒れたビルを間近で見ていた
と思うと、自分が恐ろしいと思ったのがバカみたいに感じます。
みなさん怖さを乗り込んで写真をとる記者の人たちに感動し
ました。

パネル展示を見て

1月14日 今、神戸の新旧とてございいて、とても活気があ
(木) りるので、倒壊した建物と黒い空が"な"か、ては
光景が神戸と"とは信じられないほど"でした。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会を聞いて、阪神・淡路大震災についても、と
知るべきことがたくさんあるなと感じました。"知る、
そして"伝える、ということが、この神戸に住む私達の使
命であり、自分たちの命、未来の命にもつな"ると見"いま
す。阪神淡路大震災の前には、昔、大地震が近畿
で起こっていたそう。しかし、阪神・淡路大震災が
は、た"い"さんのわが被害に"あ"りました。私達は防災しか
できないけど、その防災が"と"れほど"大事"か"この言葉で"
強く"感じ"ました。26年前の教訓を"いか"して、家"に"備"え"た
ら、と"い"ふ"難"お"か、持ち出し品"は"と"い"に"置"いてあるのか
など"と"家族と話し合おう"と見"いま"す。

パネル展示を見て

1月14日 灘、神戸が震災当初どのような状況だった
(木) のかを知ることができてよかったです。また、
あの状況から復興をなしあげた神戸はすごいと思う。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

みんなで力を合わせて、天地が、さがさまに
な"った"ような状況の中で、新しい神戸が
つ"く"られてい"っ"たように、僕も、大地震などの
大規模災害がおきたときに、対応することが、
でき"か"つ、周りの大人の人たちとも協力して、難局
を"乗り"越えていけるような大人にな"っ"てい"き"たい。
また、新聞は、正しく正確な情報を後世へ
つ"た"えていく役割と、読者に希望と勇気を、あた"へ"る
役目をはた"す"ことも、重要だと僕は思"い"ました。
予"期"せぬ災害が発生したときの、ために、準備を
し"て"い"きたい

パネル展示を見て

1月15日

(金) パネルを見たらおぼしんが家が2枚の写真ばかりで
おぼしんが震災がおろいものかが分かりました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会を終えて、知らず知らずのうちに小さな災害でも、地形によっては
大きな災害になり、防災をしないだけでも大きな災害になり
して、死者が増えたり、けが者が増えたりしてしまうというのを知りま
した。たまたまのミスで、事態が大きくなり、命を落として音信不通
になり、起きた事が起こらないためにも、知識を身につけ、災害に備えて
準備するのが大事だと思います。そして、今の時期、コロナウイルスが流行
り、密集は避けられないように言われ、避難場所ではどうしても密集はな
し、いろいろな対策が取られる中、いつかマスクや消毒液も届かなくなって
しまえば、このまま、普段から体調管理には気を付けようと思います。

パネル展示を見て

1月15日 戦争のあとのようなところも見えて、つらかったし悲しかった。

(金) 被害はよって何人も人が亡くなってしまったんだろう
と思うと本当にかわいそうで、泣きそうだった。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

私はこの講演会を終えて「災害は学ぶこともあるが、見てい
つらく、悲しいことのほうが多い」と思いました。三好さんから
「学ばせていただいた。災害と災害を比較し、比較した上でどんなこと
を学んだのか。」と「どんなことかあったのか。」という二点のお話をきかせて
いただいたところから、さっきのように思いました。

パネルを見ていたときもものすごい絶望感と悲しさが伝わってきました。
やはり災害からは豪雨からの非難のしかたや豪雪地帯での避難
などの色々なものを学ぶことが出来るけれど、そこから失われていく
ものは大きいと思います。これから、もっと災害に気を付けて学んだ
ことをいかしていきたいと思います。ありがとうございました。

パネル展示を見て

1月15日 街中の建物がかたむいていたり火事が起きて
(金) いたりして元の神戸の様子が分からないくらいで怖く
なりました。でも、たき出しをしていたり、ダンボールを運びこんだりする
復興に向けての様子を見て、心が温まりました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

実際の当時の様子を写真で見ると、ビルが倒れていたり、いたる所で火災が起きていたり、六甲道駅がくずれていたり大きな被害を受けていて怖かったです。また、大地震が起きると、地震の直接的な被害だけでなく、避難難所の寒さによる肺炎や感染症など多くの被害を受けることを初めて知り、それに備える避難の方法を知っておくべきだと思いました。新聞記者の方々はそんならい状況の中で取材を続けたり、多くの人に今の神戸を知ってもらうための新聞を作り続けたと聞き、本当にすごいと思ったし、新聞をたくさんの人に読んでもらい、伝えたいという思いを感じました。

パネル展示を見て

1月15日

(金) 自然災害の被害は歴史的建築物にも大きな
あたえるということを知りました

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

よくは、三好さんの話聞いて、新聞記者はとて大変だと思
理由は、災害時でも読者のために、情報を集め、コン
ピューターが壊れていても、他社にコンピューターを借りて新
聞を作り上げようとする執念にすごいと思いました。また、新
聞社のしくみがそんなに複雑だなんて知らなかった
こんな良い機会に知れてよかったです自分は、取材系か
映写係と、編集系か係だと思

パネル展示を見て

1月15日 被災の写真を見て被災はさあじと見た。
(屋)

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

経験者に聞いた。さあじがわかった。
とても大変な仕事だと改めて感じました。阪神・淡路大震災は
体験してないけれど、そのことをよく知り、次に来ると
きに備えておくことが大切だと思いました。この講演会
で、たくさんの方々の防災や自然災害に関する知識が
増えました。この講演会を活かして、防災・
減災に取り組んでいこうと思いました。
防災学習は、ものすごく大切だと思ったので
これから、防災学習を大切に受けたいこ
うと思いました。